

## 東京支部

東京支部の思いと現状

支部長 永峰 徹  
(三高18回卒)

東京支部総会は10月の第3土曜日に毎年開催してきましたが、コロナ禍の中で令和二年、三年の支部総会開催を中止しました。楽しみにして頂いていた会員の皆様には申し訳ありませんが、来年度は開催出来ると思いますのでご期待下さい。

毎年開催してきた総会には、母校の先生方や大中三高会役員及び地元市長さん等が来賓として参加して頂きました。東京支部の会員も大中卒業の大先輩から大学生まで幅広い参加者が結集してきました。来賓者からは母校の状況や故郷の話題等の話を聞かして貰いました。懇親会では支部会員の講演会で貴重な体験、話題を披露して頂きました。新人紹介や二次会では大いに盛り上がった事を昨日のように覚えています。総会後は故郷への思いや明日への活力を頂きました。

現状の東京支部会員は、約600名ですが、東京支部を長年支えて頂いた大中、三高一桁代の参加が毎年減少している状況です。東京支部は、学生さんの参加も呼びかけていますが出席者も少なく、全体の参加者も現状維持の状態が続いています。今後の課題は、支部活動を活性化して幅広い会員の参加を得る事です。

現在、役員間の連絡はメールですが、意見交換や日常的な広報活動の一環として支部のホームページを企画しています。

まだコロナ禍の最中ですが、ワクチンの浸透等により来年度は笑顔で再会できる事を楽しみにしています。

## 関西支部

関西支部活動

支部長 谷口 廣重  
(三高25回卒)

令和元年五月に関西支部の総会(同窓会を開催してからその後は新型コロナウイルス感染症で令和二年は中止して、本年も集まれる状況ではありません。

大阪香川県人会や関西の香川県高等学校同窓会も相次いで中止になり、総会開催の見通しが全く立たないのが現状です。

会員交流の場が閉ざされている中で幸いにも四年前(平成二十九年)から毎年の総会報告支部情報や会員の寄稿で会報(支部だより)を発行し、一部の会員に配布しておりました。

今年は特別な年であり、幅広く会員から便りを募って特集を組む予定にしております。会報を通して会員同士の交流の輪を広げて絆を深める一助になればと思っております。

課題は総会の参加者が年々減少しており前回は約四十人で最小でした。この人数は全会員の4%と低調です。

今後はどこでも参加できるリモートでの会合(会議、打ち合わせ、総会)を取り入れて、より多くの関西支部会員や三高関係者が交流し易い環境を整えて行きます。

関西支部への問い合わせは次のメールアドレスまで

daityu.sanko.kansai@gmail.com

## 高松支部

令和3年度も高松支部総会を中止に致しました。

支部長 軒 原 正 浩  
(三高30回卒)

高松支部の会員並びに同窓生の皆様には、日頃よりご支援・ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

令和3年度の高松支部総会開催につきましては、新型コロナウイルス感染症による感染拡大を防止するために昨年に引き続き、誠に残念ながら中止とさせて頂きました。

今年はコロナ禍により一年延期となっていた東京オリンピックが7月23日に開幕し、57年ぶりに東京の地に聖火が灯されました。当時4歳の私は両親に連れられて聖火リレーを見学に行った記憶しか残っておらず、今回は競技を直に観戦できることを楽しみにしておりましたが、緊急事態宣言下で開催されたためにテレビ観戦となりました。日本選手の活躍は素晴らしい、香川県出身者からも夏季大会では4人目(5個目)の金メダリストが誕生しましたが、近い将来我が母校出身者の活躍する姿を見たいと思いを巡らせながら開幕を迎えました。

まだまだコロナ禍が終息するまでには時間を要すると思いますが、来年度の支部総会開催の暁には、皆様と笑顔で再会できますことを、そして母校の校歌を合唱できますことを役員共々楽しみにしております。

三高22回卒業有志より  
卒業50周年  
記念寄付

卒業50周年を祝い、同級生に呼びかけ集めた寄付金を令和3年3月5日に三高22回卒業生代表の方よりいただきました。

校長より、「生徒の活動のために活用させていただく。」とお礼の言葉がありました。



左から泉谷校長、三高22回卒業生代表の松井さん、江元さん、多田さん、高嶋さん、香西さん(校長室にて)

この寄付は、平成5年に始まり29回目となります。

このたび、「香川県立三本松高等学校教育後援基金」(9頁参照)が設立されたことで、今後、卒業50周年記念のご寄付はこの教育後援基金の財源として、生徒の活動のために有効に使ってまいります。